様式３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数（専任講師）	うち理学療法士数	非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数
理学療法士養成学科	計　6　人	計　6　人	計　40　人	19　人

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	担当授業科目名		担当コマ数	担当教員氏名	担当教員職名（専任・兼任）
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	人文科学	心理学	15	安東末廣	兼任
			人間ｺﾐｭ論	8	安東桃子	兼任
			教育学	8	竜田庸平	専任
		社会科学	社会福祉学	15	安藤実和子	兼任
			医療経営学	8	林欣也	兼任
		自然科学	統計学	15	浅野昌充	兼任
			社会の理解	8	林欣也	兼任
			環境学	8	川村修	兼任
		外国語		15	隈元正行	兼任
		医学英語		8	隈元正行	兼任
		保健体育		8	本田隆広	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ		45	山口良二	兼任
		解剖学Ⅱ		45	保田昌宏	兼任
		生理学		45	大山史朗、福本周市	兼任
		運動学		45	竜田庸平	専任
		人間発達学		15	日高義治	兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論		15	相澤潔	専任
		病理学		15	山口良二	兼任
		臨床心理学		15	安東桃子	兼任
		内科学		15	小田、塚本、高木	兼任
		整形外科学		15	松本英裕	兼任
		神経内科学		15	岡原一徳	兼任
		精神医学		15	平賀大貴	兼任
		小児科学		15	岩崎直哉	兼任
		眼科学・口腔外科学		15	森継則、野間隆文	兼任
		臨床医学 栄養・予防・救急		8	原佑樹	兼任
		公衆衛生学		15	竹内昌平	兼任
		障害学		15	平島陽子	専任
		老年学		15	田代学	兼任
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学		15	鈴木幹次郎	兼任
		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論		15	大山史朗	兼任
		地域包括ケア概論		15	小川哲史	専任

専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	30	本田隆広	専任
		理学療法概論Ⅱ	30	小川哲史	専任
		理学療法ｾﾐﾅｰ	15	平賀、永野、小園	兼任
		臨 床 運 動 学	15	落合、岩田	兼任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	酒井隼	兼任
	理学療法評価学	理学療法評価概論	30	柏木俊彦	専任
		検査測定・画像	15	小川哲史	専任
		理学療法中枢評価	15	速見弥央	専任
		理学療法運動器評価	15	本田隆広	専任
		理学療法小児評価	15	竜田庸平	専任
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ	15	柏木俊彦	専任
		運動療法学Ⅱ	30	速見弥央	専任
		神経理学療法学	30	速見弥央	専任
		小児理学療法学	15	竜田、中澤	専任、兼任
		呼吸理学療法学	15	田村幸嗣	兼任
		循環器理学療法学	15	三秋拓郎	兼任
		運動器理学療法学	45	本田隆広	専任
		内部障害理学療法学	15	速見弥央	専任
		スポーツ理学療法学	15	常盤直考	兼任
		物理療法	30	平島陽子	専任
		日常生活活動	30	平島陽子	専任
		義 肢 学	15	柏木俊彦	専任
		装 具 学	30	柏木俊彦	専任
	地域理学療法学	生活環境論	15	平島陽子	専任
		地域理学療法学	15	速見弥央	専任
		地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	15	平島陽子	専任
	臨床実習	見学・検査測定実習	40時間	臨床実習指導者	兼任
		地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ実習	40時間	臨床実習指導者	兼任
		評 価 実 習	160時間	臨床実習指導者	兼任
		総 合 実 習	720時間	臨床実習指導者	兼任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名（開講時期）
見学・検査測定実習	1年後期	理学療法評価概論（1年前期）、理学療法概論Ⅰ（1年前期）、 運動療法Ⅰ（1年前期）、検査測定画像（1年後期）
地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ実習	3年後期	地域理学療法（1年後期）、地域包括ケア（2年後期）、 地域リハビリテーション（2年前期）
評　価　実　習	2年後期	理学療法評価概論（1年前期）、理学療法中枢評価（2年前期）、 理学療法運動器評価（2年前期）、理学療法小児評価（2年後期）
総　合　実　習	3年前、後期	運動療法学Ⅰ（1年前期）、運動療法学Ⅱ（2年前期）、 神経理学療法学（2年後期）、小児理学療法学（2年後期）、 呼吸理学療法学（2年後期）、循環器理学療法学（2年後期）、 運動器理学療法学（2年後期）、内部障害理学療法学（2年後期）、 スポーツ理学療法学（1年後期）、物理療法（2年前期） 日常生活活動（2年後期）、義肢学（1年後期）、装具学（2年前期）

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	藤澤豊子
組織の開催頻度	年1回開催
組織の取り組み内容	・学校関係者からの外部評価公表
	・進路の検討
	・学校の教育活動その他の学校運営の状況について学校自らが評価を行う「自己評価」
自己点検・評価結果の公表	https://www.miyaisen.ac.jp　HPで公表

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	教育課程編成委員会
	委員構成等	副校長、教務部長、学科長、外部委員
	改善の仕組みの実際	年2回開催し、外部委員とシラバスや授業進捗表を精査して修正を加えている。また、指定規則との照合や年間行事の計画、実習調整に関しても協議している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

月に1回科会を開催し、改善点等が議案に上がった時には専任教員が集まって協議し、最低次年度までに解決する体制を整備している。また、看護学科との協働学校であるので、月に1回職員会議を開催して情報を共有して改善点の精査を行っている。重要事項に関しては運営委員会や教務委員会を適時に開催して協議している。